

# 実入り 輸出入で伸長

## 大阪港 港勢回復続く

【関西】大阪港のコンテナ取り扱いが回復を続けている。コロナ禍で世界的に物流網がダメージ

を受けた2020年は同港もコンテナの取扱個数を減らしたものの、他の国内主要港に比べ

と影響は軽微だった。同港は輸入が主力で根強い消費需要が底支えした形だが、半面輸出は低調に

推移していた。一方で21年に入ってから輸出も伸長している。大阪港の累計コンテナ取扱個数は輸出合計で前年同期比4%増の85万6473TEU。主力の輸入が堅調で6%増の47万6390TEUとなったほか、輸出も2%増の38万83TEUを記録した。

同港は20年のコンテナ取扱個数が前年比3%減約206万TEUだったが、他の国内主要港が6-10%超の取り扱い減少となったのに比べると、

（最速報値）では、1-5月の同港の累計コンテナ取扱個数は輸出合計で前年同期比4%増の85万6473TEU。主力の輸入が堅調で6%増の47万6390TEUとな

コロナ禍の影響は限定的だった。同港は輸出入のインバランス（不均衡）が大きく、背後地に国内有数の消費地を有するた

取扱個数が乱高下した1-3月を累計でプラス成長とし、4、5月も9万TEU半ばの取り扱いと安定していた。

では名古屋港に次いで、大阪の取扱量の伸びが目立つ。関西のフォワーダー関係者からは、21年に入り日中間の堅調な需要に加え、タイやベトナムなどへの輸出コンテナのニーズが高まっているとの声が上がっていた。輸入も薬もり需要が高まった昨年から勢いを持続している。

20年は輸入コンテナの取り扱いで底割れを回避し、小幅の減少にとどまった同港だが、21年に入ってから引き続き輸入の回復基調を維持している。輸入は前年同時期に

一方、1-5月は輸出で実入りコンテナの取り扱いが好調で、実入りだけの輸出取扱個数は前年同期比10%増の17万854TEUに達した。輸入、輸出ともに堅調に推移した結果、国内主要港の中